広報誌・年報 SUMMER

こころの虹

か・け・は・し

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKCRO no KAKEHASHI

♥ホームページ URL http://www.oikawahp.net ♥Eメール address info@oikawahp.net

編集・発行
医療法人 にゅうわ会
及川病院
〒810-0014
福岡市中央区平尾2丁目21-16
TEL 092-522-5411

No. 43 2019年07月 発行

祝開院５０周年記念
特別号

患者様の権利と義務

患者様には「ご自身が生命の主人公」として、医療従事者とのよりよい人間関係を築いていけますよう以下の「守られていること」「守っていただきたいこと」があります。

人格権

患者様は個人としての人格、価値観などを尊重されます。

受療権

いつでも必要かつ十分な医療サービスを受けるために、医療機関を選択する権利があります。

知る権利

病名、病状、診療計画、検査・手術、薬、必要な費用などについて、納得できるまで説明を受ける権利があります。
同時に、私たちに既往歴、現病歴、現在の治療内容、アレルギー歴など健康に関する情報を正確にお伝えください。

自己決定権

十分な説明を受け、理解した上で、提案された診療計画などを自らの意志で決める権利があります。
同時に、それらの内容に関する指示を守る義務があります。
納得できない場合は、他の医師や医療機関の意見を求めることができます。

プライバシーに関する権利

個人の秘密や医療に関する個人情報が守られ、私的なことにみだりに干渉されない権利があります。

参加する権利

診療内容や病院の運営につき苦情や意見を述べ、医療改善の活動に参加する権利があります。安全性を高めるためお名前の確認などにご協力ください。

◆□ CONTENTS □◆

○ 開院５０周年記念の挨拶 ・・・・・・・ｐ２
○ 病院概要 ・・・・・・・・・・・・・・ｐ５
○ 臨床試験 ・・・・・・・・・・・・・・ｐ７
○ 統計 ・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ８
○ 及川病院組織図 ・・・・・・・・・・ｐ１０
○ 医事課便り ・・・・・・・・・・・・ｐ１１
○ 新刊書籍のご案内 ・・・・・・・・・ｐ１２
○ 六本松乳腺クリニックのご案内 ・・ｐ１２
○ 緩和ケア便り ・・・・・・・・・・・ｐ１３
○ 乳がん自己検診の方法 ・・・・・・・ｐ１４
○ 外来担当表 ・・・・・・・・・・・・ｐ１５
○ 連載「遺伝性乳がんについて」 ・・ｐ１６

及川病院開設50周年を迎えるにあたって

及川病院　院長　及川達司

元号が平成から令和に変わった2019年、奇しくも当院は開設50周年を迎えました。人生100年時代と言われる現在、病院の折り返しの年に、今までの病院の歴史をあらためて振り返ってみました。

当院は昭和４４年3月、先代院長(及川敏夫)により及川外科(有床診療所)としてこの地に開設されました。先代が掲げた理念は、「患者さま第一で、来院される患者さまは何時いかなる場合でも必ず診る」というものでした。当院のある福岡市中央区はそのころから全市の11~12%の対象人口を抱え、道ひとつはさんで隣の南区まで含めますと約30%にのぼります。そういう環境の中にあって、外科・整形外科・内科を中心に地域医療に携わって来ました。救急病院の指定も受け、平成元年に私が副院長として帰って来てからもしばらくは、地域密着の病院としての役割を担ってきたと思います。
当地は半径５キロ以内でみますと、九州大学病院、済生会福岡総合病院、九州医療センター、福岡大学病院、福岡赤十字病院等々、500床クラスの急性期の最先端医療を担う病院が並んでいます。それぞれの病院の救急体制が整ってくると救急車も急患をそれらの大病院へ搬送するようになりました。患者様の希望を考えると、それも時代の流れかと思い当院の救急病院としての役割は終えて良いのではと考えるようになりました。
そこであらためて平尾地域に目を向けますと、ビルクリニックなどの新規開業が増え、受け持つ診療科の細分化が進んでいました。平成10年ころから入院患者は減少して行き、ベッドも空床が目立つようになりました。そこで私は管理職のメンバー及び医療コンサルタントと意見交換を重ね、今後の当院の進むべき方向を模索しました。私は本来大学において乳がんと甲状腺を専門として学んで来ましたが、当時それを専門に行う専門病院は福岡にはありませんでした。
大病院の一診療科で診断・治療を行うため、検査や手術までに時間がかかり、さらに女性患者の心理には全く配慮できていないのが現状でした。一方で乳がんは女性のがん罹患率のトップを占めるようになり、今後も患者は増えていきます。そういう環境のニーズに応えられるような組織を作りたい、乳がんを専門に診療し、定期的な検診から手術や術後の化学療法までトータルに診ていける病院を目指そうと決めました。私を支えてくれる管理職スタッフも同意見でした。

職員にもその方向性を明らかにし、新しい病院の組織作りに取り掛かりました。また乳がんを扱っていますと、そのターミナルに立ち会うことも増えてきました。外科病院としての療養環境下ではなく、終末期をきちんと管理できる病棟も持つべきだと考え、緩和ケア病棟を立ち上げることにしました。立ち上げに際しては、私をはじめ、事務長、他スタッフと各地のホスピスや乳癌専門病院等を見学したり、話を聞いたりして、ホスピスへの想いを共有する事に努めました。そうして15年前、平成16年に病院の全面的建て替えを行いました。建て替えには、病院建築の設計士を中心に、病院建築には関わりを持つ機会の少ない女性デザイナーにも加わってもらいました。病院という非日常な不安な環境を和らげるために、医療者が忘れがちな患者さまの「普通の感覚」を大切に造り上げてきたつもりです。柔らかい色彩や各階毎のテーマに沿った内装、男性を含む一般患者様との動線分離、独立した更衣室、病室の個室化、外来パウダールームの設置など、女性を徹底的に意識した造りにして頂きました。その後も患者さまやスタッフの声を取り上げ、少しずつ手を加え改装してきています。

当院の規模で一番難しいのはスタッフの確保ですが、幸いな事に良い人材にも恵まれました。平成13年に前九州がんセンター乳腺部長の野村先生を顧問として迎え、週1回の診療と私の相談役を平成29年まで勤めていただきました。残念ながら平成31年3月当院緩和ケア病棟でお亡くなりになりましたが、当院における貢献度は計り知れず今も感謝の気持ちで一杯です。

平成18年に私の後輩である黒井医師（元都立駒込病院副院長）を1年間東京から招いて当院の乳腺部長として勤務して頂きました。短い期間ではありましたが、乳がん治療の最先端をスタッフ共々学ぶ機会を得て、大変良い経験となりました。９年前からは同様に私の大学医局の後輩である久松医師を乳腺部長として迎えました。診療、臨床試験への参加、職員への教育等、当院の乳がん治療を担って頂いています。

4年前からは息子（長崎大学医学部大学院卒）が九州がんセンターで2年間の研修後に当院へ帰ってきました。1年間の米国留学（MDアンダーソン癌研究所）を挟んで臨床とともに乳癌の遺伝子治療、精密医療に力を入れています。

又現在は非常勤を含め６名の女性医師にも来て頂いています。男性医師では検診を受け辛いと思われている女性の方々にとって、少しでも敷居の低い病院でありたい、乳癌検診を少しでも気軽に受けて欲しいと考えての事ですが、女性医師への希望は多く患者様に大変喜ばれています。

また同じ思いから平成29年10月にサテライトとして六本松に及川病院六本松乳腺クリニックを開設いたしました。
女性常勤医師（榎本医師）をクリニック院長として迎え、検診を主体に、手術が必要な患者様は本院にて手術する体制をとっています。
又、この様な環境の中で認定看護師を目指すスタッフも育ち、急性期病棟、緩和ケア病棟に認定看護師を誕生させる事ができました。今後の活躍を楽しみに期待してみています。
ご存知のように乳がん診療は日進月歩で、毎年のようにガイドラインが変わるといった状況です。AIの発展により、今までの診断、治療も驚くほどの速さで変わっていくのだと思います。若い先生方の活躍を応援しながら、新しい医療に携える事を楽しみに思っています。緩和ケアについては今後も在宅での看取りが増えていくのは必定です。当院の緩和ケア病棟の持てる設備や知識をどの様に提供する事が、患者様にとって有益であり求められているのかをスタッフ一同と考えながら、基幹病院や訪問診療、訪問看護に携わっている方々とのさらなる連携構築に努めていきたいと思います。

これから先の10年、20年、今考えれば先の事に思えますが、今までの50年を思い起こせば時の経つのは瞬く間かもしれません。その時に、福岡でのオンリーワンの病院であり、患者様に喜ばれ、選ばれる病院である事を切に願いながら、50周年の挨拶とさせていただきます。

及川　達司
1946年広島県出身。
広島大学医学部医学科卒業後、
ウィーン大学癌研究所へ留学。
1982年に福岡大学医学部第一外科講師に。
乳がん・甲状腺疾患の診断と治療を専攻後、
1993年に『及川病院』院長に就任。趣味はゴルフ。

【病院概要】

病院名　医療法人　にゅうわ会　及川病院
所在地　福岡県福岡市中央区平尾２丁目２１−１６
電　話　０９２−５２２−５４１１　／　ＦＡＸ　０９２−５２２−６２４４
開設者　理事長　及川　達司
所属長　事務長　川波　時治
　　看護部長　田上　淳子
建　物　鉄筋コンクリート造　地上５階
　　延床面積　２７２７．６８㎡
診療科　乳腺外科・緩和ケア内科・乳腺化学療法内科・乳腺心療内科・乳腺リハビリテーション科
　　麻酔科・放射線科
病床数　乳腺科　２１床　／　緩和ケア　１５床　　計　３６床
看護基準　急性期一般入院料５　／　緩和ケア病棟入院料１
職員数　７０　名　（令和元年７月１日現在）

（内訳）	医師	７名	看護師	３６名	准看護師	１名
	診療情報管理士	１名	薬剤師	３名	放射線技師	３名
	検査技師	３名	医療事務	１１名	管理栄養士	１名
	事務員	４名				

許認可事項
・日本乳癌学会認定施設　／　・日本医療機能評価機構認定病院

施設基準（診療報酬名）
・急性期一般入院料５　／　・診療録管理体制加算１
・療養環境加算　／　・重症者等療養環境特別加算
・感染防止対策加算２　／　・緩和ケア病棟入院料１
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算　／　・がん性疼痛緩和指導管理料
・がん患者指導管理料イ　／　・がん患者指導管理料ロ
・開放型病院共同指導料　／　・がん治療連携指導料
・薬剤管理指導料　／　・在宅がん医療総合診療料
・ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影　／　・外来化学療法加算１
・無菌製剤処理料　／　・麻酔管理料１
・入院時食事療法・入院時生活療養等／　・後発医薬品使用体制加算１
・データ提出加算１　／
・在宅時医学総合管理料又は特定施設入居時等医学総合管理料
・組織拡張期による再建手術（乳房（再建）手術の場合に限る）
・乳がんセンチネルリンパ節加算１及びセンチネルリンパ節生検（併用）
・センチネルリンパ節生検（乳がんセンチネルリンパ節加算２）
・医科点数表第２章第１０部手術の通則の１６に掲げる手術（胃瘻造設術）

沿　革　　昭和44年 3月　及川医院として開院。院長及川敏夫。
昭和59年 3月　及川整形外科に名称変更
昭和62年 8月　新館増築、36床に増床、病院の届出。及川病院に名称変更
平成 5年11月　及川達司院長就任
平成 9年 5月　医療法人にゅうわ会及川病院設立
平成13年 1月　日本乳癌学会認定施設承認
平成16年 1月　新病院全面竣工
平成16年 4月　外来化学療法加算届出
平成16年 8月　開放型病院共同指導料届出
平成16年 9月　日本医療機能評価機構施設認定取得
平成16年10月　緩和ケア病棟入院料届出
平成18年10月　一般病棟入院基本料7対1届出
平成20年 4月　先進医療（センチネルリンパ節生検）届出
平成20年10月　J-START参加
平成21年 9月　日本医療機能評価機構施設認定更新
平成26年 3月　CT、MMGをデジタル化
平成26年 4月　一般病棟入院基本料10対1届出
平成26年 9月　日本医療機能評価機構施設認定更新
平成29年 3月~6月　大規模修繕工事
平成29年10月　及川病院六本松乳腺クリニック開業
平成30年 5月　急性期一般入院料5届出

関連施設

［病院名］　及川病院六本松乳腺クリニック
［所在地］　〒810-0044　福岡市中央区六本松４丁目２番２号　六本松４２１
（２階クリニックゾーン）
［連絡先］　ＴＥＬ　092-406-8172
［開設者］　理事長　及川　達司
［クリニック長］　榎本　康子
［診療科目］　乳腺外科
［診療時間］　9：00~13　：00　／　14：00~17　：00
［施設基準］　・がん性疼痛緩和指導料
・がん治療連携指導料

【臨床試験】

＜登録期間中＞

○ ゲノム不安定性を示す遺伝性疾患群における新規原因遺伝子変異の探索

○ 乳がん症例における循環癌細胞の単離とそのDNA修復活性の測定法の確立

○ HER2陽性進行・再発乳癌におけるトラスツズマブ、ペルツズマブ、タキサン併用療法とトラスツズマブ、ペルツズマブ、エリブリン併用療法を比較検討する第Ⅲ相臨床研究
（JBCRG-M06（EMERALD））

○ フルベストラント使用中に病勢進行したホルモンレセプター陽性進行・再発乳癌患者に対する、パルボシクリブ追加投与の有効性の検討　−多 施設共同臨床試験−
（JBCRG-M07（FUTURE））

○ CurebestTM 95GC Breastを実施した乳癌患者の症例登録研究

○ 終末期乳がん患者における予後規定因子の後方視的解析

＜登録終了・追跡調査中＞

○ HER2陽性の進行・再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第Ⅲ相臨床研究　−ペ ルツズマブ再投与試験−　（JBCRG-M05（PRECIOUS））

○ HER2陽性乳がん患者におけるctDNA検出と治療効果予測に関する研究

○ ホルモン受容体陽性且つHER2陰性の原発乳がんに対するドセタキセル／シクロフォスファミド（TC）療法、5-フ ルオロウラシル／エピルビシン／シクロフォスファミド（FEC）− TC療法、TC-FE C療法による術前化学療法のランダム化試験　（JBCRG-O9）

○ HER2陽性の原発乳がん患者を対象とした補助療法としてトラスツズマブの有効性を検討する観察研究 −コホ ートⅠ　（JBCRG-C01）

○ HER2陰性の手術不能又は再発乳がん患者を対象としたベバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究　（JBCRG-C05（B-SHARE））

○ 閉経後乳がんの術後内分泌療法5年終了患者に対する治療終了とアナストロゾール5年延長のランダム化比較試験　（N-SAS BC05（AERAS）

○ エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳がんに対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験
（POTENT）

【統　計】

○ 平成３０年度　手術件数

全身麻酔	３４６件
局所麻酔	３７件
センチネルリンパ節生検	２０３件
乳腺腫瘍摘出手術（直径５ｃｍ未満）	４８件
乳腺腫瘍摘出手術（直径５ｃｍ以上）	３件
Ｂｐ	３８件
Ｂｔ	７件
Ｂｐ＋ＳＬＮＢｘ	１２２件
Ｂｔ＋ＳＬＮＢｘ	５７件
Ｂｐ＋Ａｘ	６件
Ｂｔ＋Ａｘ	４９件
リンパ節群郭清術	４件
乳管腺葉区域切除術	２件
胸壁悪性腫瘍摘出術	２件
ポート造設・抜去	３６件

○ 平成２９年度　手術件数

全身麻酔	２９５件
局所麻酔	２３件
センチネルリンパ節生検	１７９件
乳腺腫瘍摘出手術（直径５ｃｍ未満）	４２件
乳腺腫瘍摘出手術（直径５ｃｍ以上）	３件
Ｂｐ	３９件
Ｂｔ	１０件
Ｂｐ＋ＳＬＮＢｘ	１０９件
Ｂｔ＋ＳＬＮＢｘ	６４件
Ｂｐ＋Ａｘ	４件
Ｂｔ＋Ａｘ	２２件
リンパ節群郭清術	４件
乳管腺葉区域切除術	１件
胸壁悪性腫瘍摘出術	４件
ポート造設・抜去	１８件

○ 外来患者数

７７．５人／日

○ 入院患者数

２２．４人／日

○ 手術件数

全体　３４６件＜悪性腫瘍手術（原発）　２５７件＞

○ 平均在院日数

・乳腺一般病棟

平均在院日数（過去１年）：５．６日

・緩和ケア病棟

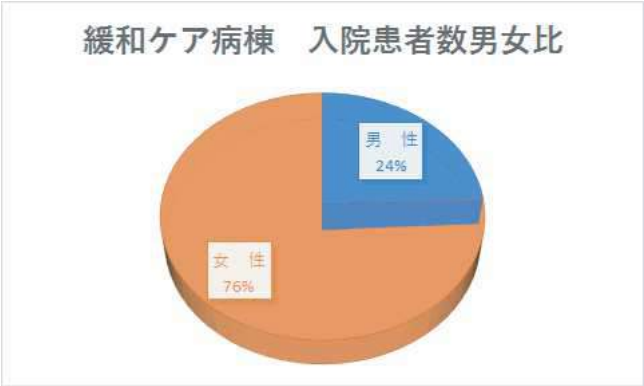
平均在院日数（過去１年）：３１．２日

在宅復帰割合（過去１年）：２４．５％

○ 緩和ケア病棟における入院患者数男女比

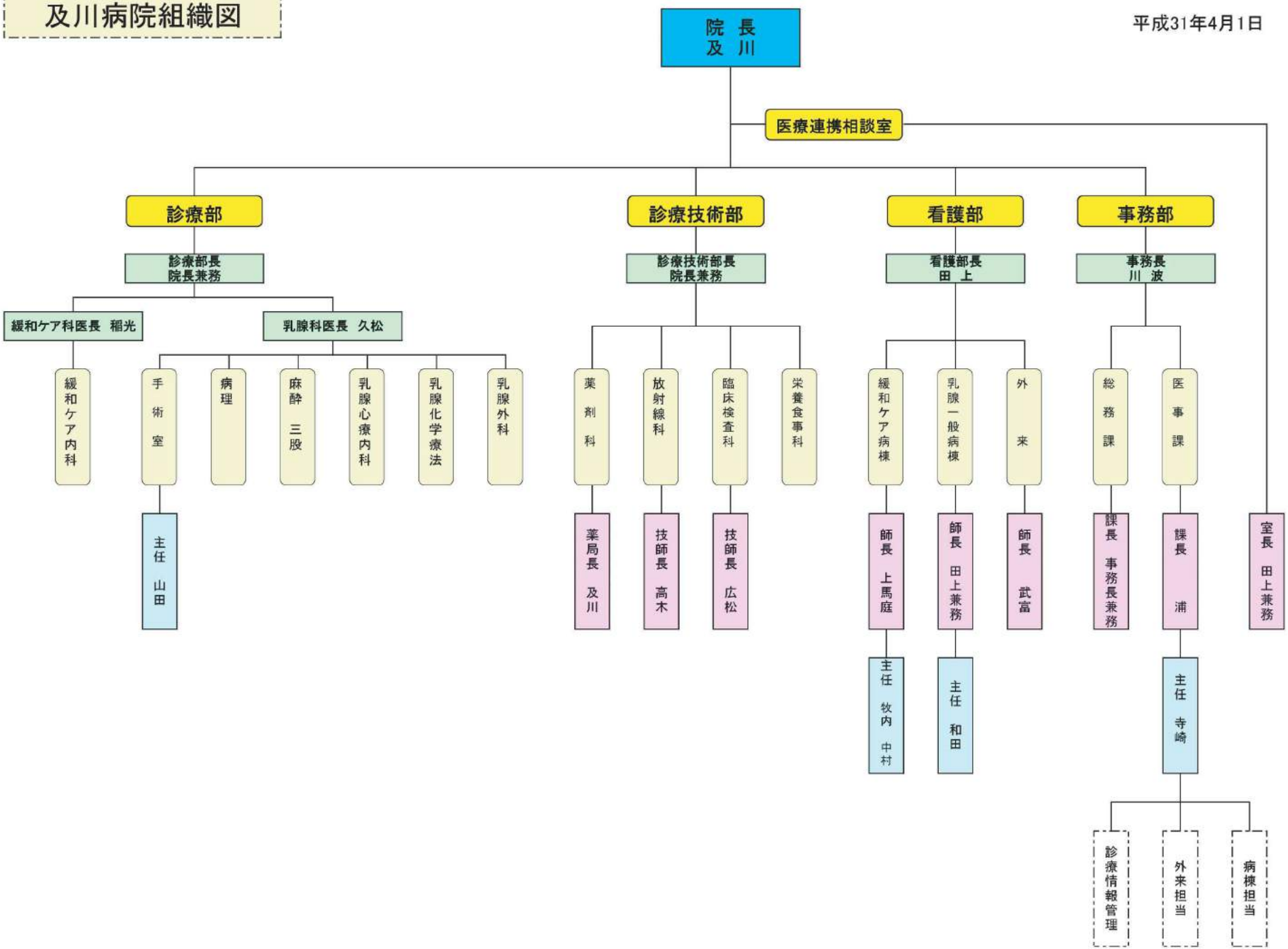
男性（過去１年）：　５８人　（２４．３％）

女性（過去１年）：１８１人　（７５．７％）



及川病院組織図

平成31年4月1日



『医事課便り』
医療費が高額になりそうな時は「限度額適用認定証」をご利用ください

病気や怪我などで医療負担が大きくなった時のために健康保険には「高額療養制度」が用意されています。この制度による医療費の払い戻しにはほとんどの場合面倒な申請作業が必要です。この手間を省き、医療費の窓口負担を抑えるためには事前に手続きを行い「限度額適用認定証」を取得し、保険証と併せて窓口にご提示いただくことにより１ヶ月（１日から月末まで）の窓口でのお支払いが自己負担限度額までとなります。

高額療養費制度の自己負担限度額は下の表のように決められています。

	所得区分	ひと月あたりの自己負担限度額	3月以上ご負担いただいた方(※2)
①	**年収 約1160万円～の方** 健保:標準報酬月額83万円以上の方 国保:年間所得(※1)901万円超の方	252,600円 +(医療費-842,000円)×1%	140,100円
②	**年収 約770～約1160万円の方** 健保:標準報酬月額53万円以上83万円未満の方 国保:年間所得600万円超901万円以下の方	167,400円 +(医療費-558,000円)×1%	93,000円
③	**年収 約370～約770万円の方** 健保:標準報酬月額28万円以上53万円未満の方 国保:年間所得210万円超600万円以下の方	80,100円 +(医療費-267,000円)×1%	44,400円
④	**～年収約370万円の方** 健保:標準報酬月額28万円未満の方 国保:年間所得210万円以下の方	57,600円	44,400円
⑤	**住民税非課税の方**	35,400円	24,600円

なお、「限度額適用認定証」が必要なのは70歳未満の方だけでしたが、2018年8月から70歳以上でも一部の方は必要となりました。収入が「現役並み」で年収が約370万円から1160万円に相当する方は「限度額適用認定証」が必要ですので、手続きをして下さい。

「限度額適用認定証」はご自身が加入している公的医療保険（健康保険組合・協会けんぽ・国民健康保険など）に、高額療養費の支給申請書を提出または郵送することで支給が受けられます。どの医療保険に加入しているかは、保険証の表面にてご確認ください。ご加入の医療保険によっては支給方法が異なる場合もあります。

「限度額適用認定証」についてご不明な点がございましたら、お気軽に受付へお問い合わせください。

新刊書籍のご案内
『乳ガンのホルモン療法を知ってますか？』

当院の乳腺外科顧問野村雍夫医師と院長及川達司コラボ著書第２弾が出版されています。

今の乳癌の治療について、乳癌とは何か？から始まりホルモン療法、化学療法、更に遺伝子検査により個々の治療の予測ができるようになってきているまでを詳しく一般の方向けに書かれています。
是非、手に取ってみて下さい。
当院の受付にて販売中です。ご購入希望の方は外来受付にお気軽にお声かけ下さい。

乳腺外科顧問野村雍夫医師と院長及川達司
コラボ著書第１弾
『乳癌は予防できるか』も絶賛発売中！

福岡市中央区の六本松421（九大跡地）に及川病院のクリニックがあるのをご存知ですか？

平成２９年１０月より六本松４２１　２階クリニックゾーンに及川病院六本松乳腺クリニックを開院しております。全てのスタッフを女性で運営しており女性による女性のためのクリニックとなっております。
是非、ご利用ください。

福岡市中央区六本松4丁目2番2号
六本松421（2階クリニックゾーン内）
TEL:092-406-8172
クリニック長　榎本 康子

緩和ケア便り「さくら祭り　２０１９」

寒暖差の大きい今年の春。桜はそんなのお構いなしで、ほぼ例年通りに開花。
さて当院の桜は、、、というと、患者様・スタッフの都合の良い時に開花し4月13日に
さくら祭りを開催致しました。今年は数種類の桜の木が到着。廊下・談話室に飾られた
桜の花の下、ボランティアさんの音楽と桜茶を家族と一緒に楽しみました。
稲光医師扮する花咲爺さんと一緒に記念撮影。待ちに待った平成最後の春到来。
笑顔いっぱいのひとときを患者様・スタッフ共に楽しく過ごしました。

緩和ケアでは、年間を通して様々なイベントを行っております。

ご家族と楽しめるイベントも多数ありますので、ぜひご家族も一緒にご参加ください。
また、毎月第３水曜日は九州大学落語研究会による落語もあります。

乳がん自己検診の方法

自分でできる検診方法をご紹介します。入浴時などに定期的に行うことで、変化や違和感に気づけます。　（生理後、1週間以内が自己検診に良い時期です）

視 診

①鏡の前でチェックしましょう。
腕を上げて、ひきつれ、くぼみ、乳輪の変化、
乳頭のへこみ、湿疹がないか確認しましょう。

視 診

②両腕を下げて腰に当てて、
同様にチェックしましょう。

触 診

①お風呂やシャワーの時、4本の指をそろえて
指の腹でくるくるゆっくりと
乳房に触れてみましょう。

触 診

②脇の下のリンパ節も
同様にチェック。

触 診

③調べる側の背中に枕や折り
重ねたタオルなどを当て、
浴室と同じように触れてみましょう。
※仰向けに寝てチェック。

外来担当表

-	乳腺外科				緩和ケア科・心療内科	外科(内視鏡)
月曜						
午前	及川達司	久松和史	及川将弘	瀬戸口優美香	-	-
午後	及川達司	久松和史	及川将弘	瀬戸口優美香	-	-
火曜						
午前	-	久松和史	及川将弘	瀬戸口優美香	-	-
午後	及川達司	久松和史	及川将弘	瀬戸口優美香	稲光哲明	-
水曜						
午前	及川達司	永渕悦子	及川将弘	瀬戸口優美香	-	永井哲
午後	及川達司	久松和史	及川将弘	瀬戸口優美香	-	-
木曜						
午前	及川達司	久松和史	西村純子	瀬戸口優美香	-	河原一雅
午後	-	久松和史	西村純子	瀬戸口優美香	-	-
金曜						
午前	及川達司	福嶋絢子	及川将弘	-	-	-
午後	及川達司	福嶋絢子	及川将弘	-	稲光哲明	-
土曜						
午前	及川達司	西村純子	木村優里／仁科麻衣		稲光哲明	-
午後	及川達司	西村純子	-	-	稲光哲明	-

092-522-5411

診療時間 平日 9:00～18:00 / 土曜 9:00～17:00

〒810-0014 福岡市中央区平尾2丁目21-16

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00 - 13:00	●	●	●	●	●	●	×
14:00 - 18:00	●	●	●	●	●	~17:00	×

（※祝日は外来休診）

連　載

遺伝性乳がんについて　その１

にゅうわ会及川病院　乳腺外科　及川 将弘
（乳がん学会専門医・臨床遺伝専門医・家族性腫瘍専門医）

わが国では乳がんに罹患する方が年々増加しており、最新の統計では一年間に約76,000人、実に11人に一人の女性が生涯のうちに乳がんに罹患するとされています。このうち約5%~10%の方が、持って生まれた乳がんへのかかりやすさが原因で発がんした乳がん、すなわち遺伝性乳がんであると言われております。

われわれの細胞は生活する中で様々な因子により（紫外線、活性酸素、化学物質など）DNAの損傷をうけますが、これを修復する機能を持った遺伝子が働いているため、簡単にはがん化しません。ところが、遺伝性乳がんの患者さんでは、DNA損傷を修復する遺伝子の機能の一部が生まれつき失われているため、細胞内でDNA損傷が蓄積してがん化しやすくなると考えられております。

いろんな遺伝子が遺伝性乳がんの原因となりますが、BRCA1遺伝子、BRCA2遺伝子が最も有名な遺伝性乳がんの原因遺伝子として知られています。この遺伝子に生まれつき変異を持ち、機能が失われている方は乳がんだけではなく、卵巣がんや他のがんにも（若年で）かかる確率が非常に高くなることが知られており、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群（Hereditary Breast and Ovarian Cancer Syndrome: HBOC）と呼ばれています。近年ではハリウッド女優のアンジェリーナ・ジョリーさんがBRCA1遺伝子に変異をもつHBOCであり、予防的乳房切除と卵巣卵管切除を受けた事をカミングアウトされ、世界的にセンセーションを巻き起こしたことは、いまだ記憶に新しいかもしれません。

では、HBOCの方は、どれくらいの確率でがんにかかるのでしょうか？ 研究報告により数字は異なるのですが、乳がんの生涯罹患率（一生のうちにかかる割合）は概ね60-80%とされています。現在の一般日本人女性の乳がん生涯罹患率が約9%ですので、ものすごくかかりやすいと言えるかと思います。また、HBOCの方の卵巣がん生涯罹患率は20-40%と報告されています。乳がんに比べると少ない様に見えますが、一般日本人女性の卵巣がん生涯罹患率は約1%でありますので、それと比べると極めてリスクが高いことが分かります。

HBOCに合併する乳がん・卵巣がんには、いくつかの特徴があります。われわれは乳癌患者さんの病歴や検査データ、家族歴を基にHBOCの可能性を疑い、必要であれば遺伝学的検査・診療を行っていきます。その特徴につきましては、次回に続きます。

連載しておりました「野村先生の”乳がんを知ろう”」ですが、顧問　野村雍夫先生が４月１０日に永眠されましたので、連載を終了とさせていただきます。野村先生には当院広報誌創刊当初よりご執筆いただき永きにわたりご尽力いただきました。誠にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。